

平成28年度 九段小学校の指導改善プラン

		達成度調査等及び児童の学習状況から見た成果と課題 ○成果 ▲課題		
結果の概要		○ どの教科も、平均達成度は目標値を上回っており、達成率も約8割以上の児童が目標値を上回っているが、全体的に二極化の傾向が見られた。		
		第4学年	第5学年	第6学年
結果の分析	国語	○「話す力・聞く力」「音声言語」の達成率95.8%と高く、基礎的な力が定着している。 ○「漢字・語句の知識」「漢字の読み書き」は十分定着している。 ▲「説明的文章の構成・展開」「説明的文章の内容・要旨の理解」「ローマ字」の定着が不十分である。	○基礎・活用的な内容共に、達成率が95.8%と高いことから、既習事項は概ね身に付いていると考えられる。 ○特に「読む力」「言語についての知識理解技能」の達成率は95%と高い。 ▲「書く力」の二極化が認められるため、苦手な児童への対策が必要である。「説明的文章の構成・展開」の定着が不十分である。	○「読む力」96.1%「言語についての知識理解技能」92.2%と達成率が高く、基礎的な力が定着している。 ○全体的に前回より達成率が上がっており、特に「書く力」が定着している。 ▲「説明的文章」についての達成率の個人差が大きく定着が不十分である。「活用」の定着が不十分である。
	社会	○「地図の読み取り」の正答率が82.4%（達成率84.4%）と高く、地理的内容の理解が定着している。 ▲「わたしたちのまち」は、70%を若干下回っており、定着できていない児童への手立てが必要である。	○「社会的な思考・判断・表現力」の達成率が91.7%、「社会的事象の知識・理解」の達成率が95.8%と高く、前回調査時より向上している。 ▲単元区分「活用」とともに、「地理的内容」の定着に課題がある。	○「観察・資料活用の技能」については達成率が90.2%と高く、学力が定着している。 ▲単元区分「日本の国土の様子（地形）」の正答率が35.3%と低く、地理的内容の定着に課題がある。
	算数	○「技能」にかかわる学習内容については、達成率87.5%と高く成果を認めることができる。 ○「図形」については、達成率89.1%と高く成果を認めることができる。 ▲「数と計算」の問題において、達成率81.3%であるが、定着できていない児童への手立てが必要である。	○「知識・理解」にかかわる学習内容については、達成率が95.8%と高く定着している。 ○「数量関係」については、達成率が95.8%と高く成果を認めることができる。 ▲「図形」の問題において、達成率89.6%であるが、定着できていない児童への手立てが必要である。	○「数学的な考え方」については、94.1%と達成率が高く定着している。 ○「量と測定」についても、達成率が94.1%と高く成果を認めることができる。 ▲「数量関係」の問題は、達成率84.3%であるが、定着できていない児童への手立てが必要である。
	理科	○「科学的な思考・表現」にかかわる問題では、達成率が90.6%と高く、学習内容が定着している。 ▲「基礎」の項目の達成率が85.9%ではあるが昨年度より低いことから、学習内容のさらなる定着が課題である。	○「観察・実験の技能」にかかわる問題では、達成率が93.8%と高く、学習内容が定着している。 ▲「活用」の項目の達成率が昨年度とほぼ同様72.9%であり、活用問題でのさらなる向上が課題である。	○「基礎」の項目の達成率が94.1%と昨年度より向上していることから、学習内容が定着している。 ▲単元区分「物の溶け方」の学習内容については正答率66.7%と他の単元と比較して定着が不十分である。
調査以外の教科についての成果と課題		○体育科では、休み時間に「九段チャンピオン」と称してラダー、のぼり棒等に取り組み、授業では一学級一実践に全校で取り組んだ。その結果、9割の学級の50m走と立ち幅跳びの記録が都の平均を上回った。体育の時間を費やして運動時間を確保したこと、一学級一実践で弱点の克服に努めたことの成果が現れていると考えられる。 ○図画工作科では、中学年において生きている花や樹木を見てかくことを通して、命の不思議さや美しさを感じ取る経験ができた。 ○音楽科では、特に歌唱において、我が国の伝統や文化、自然や四季の美しさが織り込まれた楽曲に取り組み、感性の育成を図った。 ○特別活動の異学年の縦割り班活動を通して、上級生が下級生のことを思いやり、よりよい学校になるよう意欲的に活動する姿が見られた。縦割り班清掃も定着し、6年生を中心に落ち着いて取り組む姿が見られた。 ▲図画工作科では、高学年において鑑賞を独立して取り上げるまでに至らなかった。2学期以降重点的に取り上げ、造形感覚を高める。 ▲音楽科では、音楽の人類遺産ともいえる時代や地域を越えて伝えるべき楽曲に取り組み、情操を養う活動の充実を図る必要がある。		

<p>調査以外の学年についての成果と課題</p>	<p>○全般的に授業に意欲的に取り組む児童が多く、進んで自分の考えを発表したり、友達の見解をしっかりと聞こうとしたりする態度が見られる。</p> <p>○国語科では、読書に親しむ態度、文章を読み取る力、言語事項についての基礎的な内容は定着している。</p> <p>○算数科では、知識理解、技能の基礎的な内容は概ね定着している。問題解決にも意欲的に取り組む姿が見られる。</p> <p>○体育科では自分のめあてを明確にもち、その達成に向けて努力している。</p> <p>▲文字の読み書きについて個人差が大きい。個に応じ漢字を正しく書いたり、文字を形に気を付けて丁寧に書いたりする指導を徹底することが課題である。</p> <p>▲数学的な考え方について個人差が大きい。図や言葉で自分の考えを説明する力を付ける指導を引き続き行っていく。</p>
<p>昨年度の「指導改善プラン」に基づく取組の成果と課題</p>	<p>(1) 確かな学力を身に付けるための取組</p> <p>① 基本的な学習内容の定着</p> <p>○授業や宿題で東京ベーシックドリルを活用し、基礎的内容のプリントに繰り返し取り組み定着を図ることができた。</p> <p>○書く力を高めるために、低学年では日記、視写に取り組み、書く力の基礎を築くことができた。中、高学年では川柳、スピーチなどの原稿の指導を徹底し表現力の向上が見られた。また、教科領域を問わず、辞書の活動を励行し、身近なところに辞書を置くことで、語彙を増やし、適切な表現で書く力を高めることができた。</p> <p>○毎月最終水曜日の朝の15分を「漢字チャレンジ」として本校独自の漢字検定を行った。また、1学期に外部機関の準会場として漢字検定を実施した。漢字の読み書きに対する意欲につながった。</p> <p>○理解が不十分であった学習について復習し、学期ごとに「校内達成度調査」を2学期、3学期に実施し、評価と指導の一体化を図ることで理解を確実にすることができた。</p> <p>② 習熟度に対応した指導の充実</p> <p>○毎学期「チャレンジ授業」を国語科、算数科の2時間実施し、全学年習熟度クラスで指導し理解の度合いに応じた指導を行い、理解が不十分な学習内容の定着を図ることができた。</p> <p>○理解が早い児童には、難易度の高い問題に取り組みさせたことにより、興味関心をもち、意欲的に学習できた。</p> <p>○「数学的な考え方」の向上のために、問題解決場面では自分の考えをノートに記述し、グループや全体で発表させ、図や式や言葉で表現する力が伸びつつある。</p> <p>(2) 思考力・表現力の育成</p> <p>○すべての教科で、自分の考えをもち、筋道立てて分かりやすく伝え合う学習活動の充実を図り、表現する力が高まった児童が増えた。</p> <p>○毎週水曜日の「言葉の時間」の成果を、年6回の言葉の集会で学年毎に意欲的に発表することができた。</p> <p>▲自分の考えをもち、筋道立てて話すことができる児童が増えているが、まだ苦手としている児童もいる。話型を示すなどしてスモールステップで指導を工夫していく。</p> <p>▲全体での話し合い活動については、一人一人が参加できるように学習形態などを工夫しさらに充実させていく。</p> <p>(3) 自己肯定感を高める</p> <p>○学級経営において、違いや間違いを認められ受け入れられる学級づくりを継続して行っていることで、どの学級も他者への寛容さ、褒め合いや認め合いを大切にする児童の姿が多く見られた。</p> <p>▲より自己肯定感を高めていくために、指導者が児童のよさをきちんと伝え、児童同士が互いのよさを認め合う活動をさらに取り入れる。また、家庭との連携を図り、児童のよさを家庭にも連絡するとともに機会があるときに話題とするように伝える。</p> <p>○道徳の校内研究をすすめ、「自ら考え、進んで行動する心豊かな九段の子の育成」に努め、自己を振り返り、自分自身を見つめることで、自分のよさに気付くことができた。</p> <p>○指導計画を改善し、学習計画、教材教具、指導形態の工夫を図り、児童の学習意欲や学習への達成感を高めることができた。</p>
<p>改善の方針</p>	<p>(1) 確かな学力を付けるための取組 ① 基礎的な学習内容の定着 ② 習熟度に対応した指導の充実</p> <p>(2) 思考力・表現力の育成</p> <p>(3) 自己肯定感を高める</p> <p>(4) 家庭学習</p>
<p>学校としての改善の取組</p>	<p>(1) 確かな学力を身に付けるための取組</p> <p>① 基本的な学習内容の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業や復習及び家庭学習で「東京ベーシックドリル」を活用して基礎的な力の向上を図る。 ・すべての学習の支えとなる語彙力、表現力、読む力などの向上のため、「辞書は友だち」として、辞書の使い方を掲示し、常に辞書を自分のそばに置き、分からない言葉はすぐに辞書を引く習慣を身に付ける。

<p>学校としての改善の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「書く力」を高めるために、引き続き、低学年では日記や視写に取り組む。中・高学年では川柳やスピーチ原稿などの指導を徹底する。また、目的意識をもって書く活動ができるよう全学年の作文が載る作文集「九段の子ども」を年1回発行している。6年生は全員「千代田ジュニア文学賞」に応募する。 ・説明的文章の構成・展開や内容・要旨の理解を深めるためにも、学習の中を書く活動を引き続き計画的に取り入れる。また東京ベーシックドリルの言語事項を活用し、接続語やローマ字についての基礎的事項の定着を図る。 ・正しい漢字を定着させるため、毎月最終水曜日の朝の15分を「漢字チャレンジ」として本校独自の漢字検定を行う。また、外部機関の準会場として漢字検定を実施する。検定級への合格を目標にすることで、漢字の読み書きに対する意欲の向上や学力の向上を図る。 ・低学年では週2回算数の時間に、チームティーチングで授業を行う。授業中つまづいている児童に対してT2の教員が、個別に助言し、基礎的な内容の定着を徹底する。 ・「校内達成度調査」を2学期に実施して確かな力の定着を図る。各学期復習ウィークを設定し学習内容の定着を図る。 ▲社会科の地理的な内容においては資料を活用したり白地図にまとめたりして調べる活動を取り入れるようにする。 ▲理科の「ものの溶け方」においては、実験・観察の結果が課題の解決につながるようにスモールステップで結論に至るような指導方法を工夫する。 <p>② 習熟度に対応した指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数で3～6年では習熟度別クラスで授業を行う。理解が十分なクラスでは「算数オリンピック」と称し発展的な難易度の高い問題に取り組ませる。理解が不十分なクラスでは基礎的な内容の問題や都ベーシックドリルを繰り返し行わせる。また、「目指せ算数チャンピオン」と称した取組をし、どの児童も満足し達成感を味わえるような算数的活動を工夫する。 ・夏季休業中の宿題として、達成度調査のデータを基に一人一人のつまづきに応じて国語や算数のプリントを用意し、取り組ませ個に応じた理解を図る。 ・「数学的な考え方」の向上させるために、問題解決場面では自分の考えをノートに記述し、ペアやグループや全体で交流しそれぞれの考えを広げる。自分の考えを述べることを苦手としている児童のために、話型を示し、発言しやすくする工夫をし、自分の考えを表現する力を付けていく。 <p>(2) 思考力・表現力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての教科で、自分の考えをもち、筋道立ててわかりやすく伝え合う学習活動の充実を図る。 ・学習感想など全教科で書く機会を多く設け、書く習慣を身に付け、表現する力を伸ばす。 <p>(3) 自己肯定感を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業の充実に努め、毎時間の板書を記録する。その記録を全学級分校内に掲示することで、児童が自分の生活を振り返り自分自身を見つめ直す一助とし、そのことで自分のよさに気付けるようにする。 ・指導計画の改善を通して、学習課題、教材教具、指導形態の工夫を図り、児童の学習意欲や学習への達成感を高めていく。 ・学習のまとめでは、児童のよさを認め合う相互評価にかかわる活動を取り入れ、自分が認められる満足感を味わうことができるようにする。 <p>(4) 家庭学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の学習の中から自分で課題を見付け、主体的に学習する自学ノートに取り組ませる。その取組についての手引き「家庭学習のすすめ」を作成し、その意義と進め方、学習内容を児童や保護者に説明し意欲的に取り組むようにする。 ・「家庭学習のすすめ」を全家庭に配布し、家庭学習の定着、充実を図る。
<p>教員の改善の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導改善プランを具現化し、2学期以降の授業の改善につなげていく。学年のクラスの枠を超えた児童一人一人の実態を把握し、算数チームティーチング・習熟度別指導に生かす。 ・全教科を通して「書く活動」を取り入れることで、書く基礎的な力を向上させる。そして、思考力を養うために、自分の考えを絵や図・表や式で説明させる学び合いの学習を実施する。 ・若手教員がベテラン教員の教室に1日入り、授業その他を見学する校内留学を行う。若手教員が1日教室を見学することにより、自分の授業や学級経営に生かしていく。 ・教師相互の研修であるOJTの授業観察の機会には観点を明確にした「授業観察カード」を活用し、指導助言並びに意見交換を行い、日常的に指導法の工夫や学習形態の工夫を行っていく。 ・各学年の課題から具体的な改善点を明確にし、特に学校としての改善の取組「確かな学力をつけるための取組」について学年会で共通理解を図りながら指導を行っていく。 ・児童の体力向上に向けて、一学級一実践をしていく。
<p>検証方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のノート・ワークシート・作品などの記録を分析し、問題解決の思考過程、学び方の習得状況、授業に対する関心・意欲などの変容をつかむ。 ・5月実施の達成度調査と9月実施の校内復習テストの結果を比較し一人一人の達成状況を把握する。 ・平成29年度の区達成度調査との数値の変容を比較する。特に、達成率の低い設問、および意識調査の値が低い設問などの達成率がアップしたか、意識調査の値を今年度より高めることができたかを検証する。